

愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業 実施結果報告書



派遣期間：平成 29 年 7 月 26 日（水）～8 月 1 日（火）

愛知県政策企画局国際課

目次

1	派遣者名簿	1
2	事前説明会・知事表敬訪問	2
3	バンコク都派遣	
	全体行程	3
	<1日目(7月26日)>	4
	出国	
	バンコク都知事表敬訪問	
	<2日目(7月27日)>	6
	マッタヨム・ワットプラナワット高校訪問	
	バンコク都主催ホストファミリー等との夕食会	
	<3日目・4日目(7月28日・29日)>	10
	ホームステイ	
	<5日目(7月30日)>	14
	Wat Phra Kaew (ワット・プラ・ケオ)、Grand Palace (王宮) 視察	
	バンコクシティ図書館見学	
	サイアムスクエア散策	
	サイアムニラミット鑑賞	
	<6日目(7月31日)>	16
	ナワミンタラーティラート大学訪問	
	デンソー・タイランド訪問	
	<7日目(8月1日)>	17
	帰国	
4	派遣高校生報告書	18
	(参考)	
	「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート	69

1 派遣者名簿

高校生(12名)

	学校名	氏名	学年	性別
1	千種高等学校	さいとう ななみ 齊藤 七海	2年	女
2	中村高等学校	まつなが ゆいか 松永 有叶	2年	女
3	瀬戸西高等学校	きむら ゆうな 木村 優那	2年	女
4	尾北高等学校	いそたに かいき 磯谷 海貴	3年	男
5	一宮西高等学校	いまえだ あいり 今枝 愛梨	2年	女
6	津島高等学校	やまざき じゅんぺい 山崎 順平	2年	男
7	常滑高等学校	かどにゅう みほ 門丹生 美帆	2年	女
8	豊田北高等学校	しまだ るか 島田 留果	2年	女
9	西尾高等学校	わたなべ みらい 渡辺 美礼	2年	女
10	刈谷北高等学校	やまもと はな 山本 羽奈	1年	女
11	豊橋東高等学校	すぎもと まいこ 杉本 麻郁子	2年	女
12	御津高等学校	ふじた まさとし 藤田 将豪	2年	男

引率者(3名)

	所属	役職	氏名	性別
13	愛知県国際課	課長補佐	小柳津 彰啓	男
14	愛知県国際課	主事	柴田 佳恵	女
15	豊橋西高等学校	教諭	高柳 江美子	女

2 事前説明会・知事表敬訪問

<事前説明会>

日時：平成29年7月4日（火）14時～16時30分

場所：愛知県庁第4会議室

内容：自己紹介、渡航概要説明、グループワーク、タイ語勉強会



<知事表敬訪問>

日時：平成29年7月4日（火）16時40分～17時00分

場所：愛知県公館

内容：自己紹介・抱負、知事挨拶、記念撮影



各生徒は、自己紹介の後、それぞれ派遣の抱負を発表しました。

知事からは、「このバンコク都派遣を、ぜひ有意義なものにしていただき、いろいろなところでこの体験を話してもらいたいと思います。今回の体験が皆さんの宝物になることを願っています。」と激励の言葉がありました。

3 バンコク都派遣

全体行程：平成 29 年 7 月 26 日（水）～8 月 1 日（火）

行 程		宿泊
7/26 (水)	09:00 集合 11:00 中部国際空港発 (TG645) 15:00 スワンナプーム国際空港着 17:30 バンコク都副知事表敬訪問 18:30 夕食 20:15 ホテルチェックイン	ホテル
7/27 (木)	08:00 ホテル発 09:00 マッタヨム・プラナワット高校訪問 18:30 歓迎夕食会	ホテル
7/28 (金)	終日 ホームステイ (08:00 ホテル発)	ホームステイ
7/29 (土)	終日 ホームステイ (17:00 ホテル着) 18:00 夕食	ホテル
7/30 (日)	09:00 ホテル発 09:30 ワット・プラ・ケオ (エメラルド寺院) 見学 11:00 バンコクシティ図書館訪問 12:00 昼食 13:00 サイアムスクエア散策 17:00 サイアムニラミット訪問 18:00 夕食 19:30 サイアムニラミットのパフォーマンス鑑賞 22:15 ホテル着	ホテル
7/31 (月)	08:00 ホテルチェックアウト、発 08:30 ナワミンタラーティラート大学訪問 12:30 昼食 13:20 デンソー・タイランド訪問 15:00 メガバーンナー・ショッピングセンター着 18:30 夕食 20:00 スワンナプーム国際空港へ出発	機中泊
8/1 (火)	00:05 スワンナプーム国際空港発 (TG644) 08:00 中部国際空港着 解散	—

1日目：7月26日（水）

<中部国際空港からタイへ>

別の学校の仲間との旅行で、みんな緊張した様子でした。
中には、初めての海外旅行だという生徒もいました。



タイの空港では、バンコク都のご厚意で、VIP 対応をしていただきました。
初めての体験に、興味津々でした。

<バンコク都副知事表敬訪問>

時間：17時30分～18時

場所：バンコク都庁

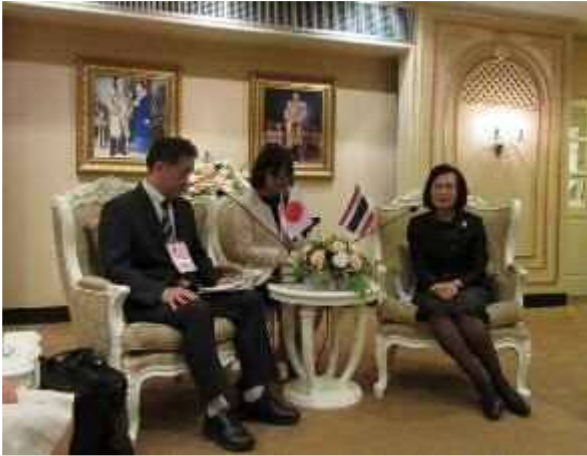
内容：バンコク都副知事挨拶、愛知県国際課課長補佐挨拶、愛知県高校生代表挨拶、
記念品交換、記念撮影

～バンコク都副知事挨拶～

今回、愛知県の高校生のみなさんをバンコクで受入れることができたことを非常に嬉しく思います。バンコクでは高校訪問やホームステイなど数々の交流プログラムを用意していますので、是非交流を深めてください。

バンコク都の体制は変わりましたが、現在の知事は教育を重要視しており、前知事が締結した外国との協定は、大切にしていきたいと考えています。

このような交流を続けていくことが両地域の絆をさらに深めていくと確信しています。是非、今後も引き続き相互交流を続けていきたいと思っています。



副知事表敬では、立候補してくれた齊藤さんが高校生代表あいさつをしました。

タイ語も交えながら流ちょうな英語であいさつをし、タイ側の出席者も喜んでいました。

<夕食>



初日の夕食を食べた日本料理店では、公式訪問団に来店してもらうことは名誉なことであるので、写真を撮らせてほしいと頼まれました。



2日目：7月27日（木）

<マッタヨム・プラナワット高校訪問>

時間：9時～16時

場所：マッタヨム・プラナワット高校

相手方：プアンパカー・セーンゲン校長 他

内容：歓迎式典、授業体験

【歓迎】



高校に着くと、大勢の先生と生徒が外に並び、国旗を振って出迎えてくれました。全員がプアン・マーライ（タイの伝統的な花輪）をかけてもらい、あまりの大歓迎に緊張しながら中へ進みます。

別室で教員たちの歓迎を受け、1日お世話をしてくれる学生のバディと会った後、体育館での歓迎会へ向かいました。





体育館では、たくさんの生徒が歓迎してくれました。想像以上の人数の前でしたが、代表の杉本さん始め高校生たちは、タイ語を交えてしっかりとあいさつや自己紹介をしました。タイの高校生が伝統舞踊を、日本の高校生が「PPAP」「世界に一つだけの花」と日本に関するクイズ大会を行いました。クイズ大会は、予想以上に盛り上がりました。



【授業体験 1 時間目：化学】



教室に用意された様々な道具を用いて液体を凍らせる実験に挑戦しました。

同じグループのタイ人学生と協力しながら実験を行い、少しずつ液体が固まってくると、どのグループも盛り上がっていました。





昼食の間中、タイの高校生が伝統音楽の演奏と踊りで楽しませてくれました。

昼食後は、楽器を触らせてもらったり、バンブーダンスを体験したりして親交を深めました。初めて見る楽器や踊りに興味が尽きませんでした。



【授業体験 2 時間目：職業教育】

タイの高校生たちが用意してくれた、タイの伝統のお菓子、手工芸品など6つのブースを回って、それぞれの製作体験をしました。



【授業体験 3 時間目：タイ語】



「ラーマヤナ」のタイ版である「ラーマキエン」について勉強し、「ラーマキエン」の登場人物の飾りを作りました。

【授業体験 4 時間目：宗教】



仏像が飾られた部屋で、お寺に飾るという「マホート」を作りました。

【お別れ】



マッタヨム・プラナワット高校では、たくさんのタイ人学生と交流することができ、友達を作ることができたようです。また、授業内容はタイの文化を体感できるものを多くご用意いただき、タイの文化についても理解を深めることができました。

帰国後のアンケートでは、参加者全員が最も印象に残ったところの一つとして回答しており、「大歓迎を受け、友達もたくさんできて、何より授業の内容やパフォーマンスがタイの歴史や文化を知れるものだったので面白かった」、「同じ年代の子と英語を通じて仲良くなれたし、色々な事を教えてもらえ、すごく歓迎してくれて、1 番楽しかった。」、「とても親切にいただき、伝統的などころから未来への教育の仕方を知ることができた」等の感想がありました。

3・4日目：7月28日（金）～29日（土）

<ホームステイ>

高校生	ホストファミリー
木村優那、渡辺美礼	Mrs. Supavadee Boriboonngkul
今枝愛梨、島田留果	Mr. Yothin Umphanthong
松永有叶、杉本麻郁子	Mr. Kraisorn Tippayajun
門丹生美帆、齊藤七海	Mrs. Kanjana Suttiwichai
山本羽奈	Miss Nongluck Tamsuwan
山崎順平、藤田将豪	Mrs. Sudarat Sudsawad
磯谷海貴	Mr. Arjvisit U-Khow U-Nam



27日（2日目）の夜には、ホストファミリーとの顔合わせ夕食会があり、木村さんがあいさつしました。

この日訪問した、マッタヨム・プラナワット高校の先生方や、11月に愛知県へ来るタイ人高校生も来てくださり、賑やかなパーティーとなりました。



～ホームステイの様子～

★Mrs. Supavadee Boriboonngkul 家（木村優那、渡辺美礼）



★Mr. Yothin Umphanthong 家（今枝愛梨、島田留果）



★Mr. Kraisorn Tippayajun 家（松永有叶、杉本麻郁子）



★Mrs. Kanjana Suttiwichai 家（門丹生美帆、齊藤七海）



★Miss Nongluck Tamsuwan 家（山本羽奈）



★Mrs. Sudarat Sudsawad 家（山崎順平、藤田将豪）



★Mr. Arjvisit U-Khow U-Nam 家（磯谷海貴）



ホームステイは、どの家庭でも大歓迎してもらえたようで、高校生たちは充実した顔でホテルへ帰ってきました。

バンコク郊外や都外の観光地へ連れて行ってもらったり、逆に観光では訪れない地域コミュニティを案内してもらったりと、とても多彩なプログラムをご用意いただいたそうです。ご家庭によっては、仲良くなれるように、タイ人の高校生も一緒に泊めてくださったところもありました。

帰国後のアンケートでは、高校訪問に次いで多くの参加者が最も印象に残ったものの一つとしてホームステイを上げています。記述欄には、「観光旅行では体験できないような地元的生活を知ることができてとても勉強になり、楽しかった。」「最初はすごく不安で緊張していたけど、いざホームステイしてみるとすごく楽しくて、すごく歓迎されて、すごく優しくしてくれたので、ずっとホームステイでも良かったと思えた。」「たくさんの場所に連れていってくれて本当に楽しい時間を過ごせた。ホストファミリーがとにかく親切で不安が全て飛んでいった。」「学校訪問で出会った学生さんも一緒に泊まってくれたのでより一層仲が深まった。」等の感想が寄せられました。



29日の夕食は、東北タイ料理を食べながらホームステイの話で盛り上がりました。

5日目：7月30日（日）

<ワット・プラケオ、王宮訪問>

時間：9時30分～10時30分

場所：ワット・プラケオ、王宮



王室の守護寺院であり、タイで最も格の高いお寺、ワット・プラケオと隣接する王宮を訪問しました。
きらびやかな外観と、人の多さに圧倒されました。



<バンコクシティ図書館訪問>

時間：11時～12時

場所：バンコクシティ・ライブラリー



2017年4月にオープンしたばかりの最新の都立図書館を訪問しました。
最初にシアター室で図書館に関するDVDを見た後、図書館職員の案内で館内の展示を見て回りました。

<サイアムスクエア散策>

時間：14時～16時30分

場所：サイアム周辺

ここにも11月に愛知県を訪問するタイ人高校生が来てくれ、3つのグループに分かれて、サイアムスクエアやMBKを案内してくれました。

買い物だけではなく高校生同士の交流もでき、とても楽しそうでした。



<サイアムニラミット鑑賞>

時間：17時～21時

場所：サイアムニラミット



サイアムニラミットは、タイの文化を紹介するショーを中心とした、総合施設です。劇場の外には、出演者と写真を撮れるコーナーや、象と触れあえるコーナー、タイ各地の村を再現したコーナーもあります。

ショーについては、「最新技術を駆使してタイの古くからの文化を表現したきらびやかなショーには感動した」「すごい迫力で、もう一度見たくなった」等の感想があり、大好評でした。



6日目：7月31日（月）

＜ナワミンタラーティラート大学訪問＞

時間：9時～10時30分

場所：ナワミンタラーティラート大学

相手方：アナン・マノーマイピブーン学長 他

内容：歓迎式典、校内見学



大学では、学長以下皆様による歓迎式典の後、校内に移動し、研究や実習の一部を見せていただきました。

高校生たちは、初めて見る微生物や機材などを興味深そうに見学していました。



＜バンコクを離れ、チョンブリー県のアマタナコン工業団地へ＞



大学訪問後、愛知県を代表する企業であるデンソーを訪問するため、アマタナコン工業団地へ移動しました。この工業団地は、多くの有名日系企業が進出している大規模工業団地で、企業の内訳は、60%以上を日系企業が占めます。工業団地の中にはレストランや病院なども完備されていて、一つの町のような感じでした。

<デンソー・タイランド バンパコン工場訪問>

時間：12時30分～15時00分

場所：デンソー・タイランド バンパコン工場

内容：会社概要説明、工場見学、質疑応答



デンソーではまず、デンソー側のご厚意で、社員食堂で昼食をいただきました。

その後、会社の概要説明を受け、社内を見学させていただきました。最新技術を駆使したロボットを始め、各工程で様々な改善がなされていることがわかりました。

地域貢献活動や環境活動、タイの大学との共同研究についての説明もあり、高校生たちは熱心に聞き入っていました。



7日目：8月1日（火）

<帰国>



充実した6日間のプログラムを終え、7月31日の深夜便で帰国しました。

全員大きなトラブルもなく、満足した顔で帰ってくることができました。

4 派遣高校生報告書

	学校名	氏名	ページ
1	千種高等学校	齊藤 七海	19
2	中村高等学校	松永 有叶	23
3	瀬戸西高等学校	木村 優那	31
4	尾北高等学校	磯谷 海貴	34
5	一宮西高等学校	今枝 愛梨	39
6	津島高等学校	山崎 順平	42
7	常滑高等学校	門丹生 美帆	49
8	豊田北高等学校	島田 留果	51
9	西尾高等学校	渡辺 美礼	56
10	刈谷北高等学校	山本 羽奈	59
11	豊橋東高等学校	杉本 麻郁子	62
12	御津高等学校	藤田 将豪	65

愛知県高校生バンコク都派遣事業報告書

Aichi-Bangkok High School Student Exchange Program 2017 Report

～あなたがタイ王国を訪れるべき3つの理由～

-The 3 Reasons Why You Should Visit Thailand-

Nanami Saito (Aichi Prefectural Chigusa High School)

齊藤七海 (愛知県立千種高等学校)

はじめに Introduction

みなさんはタイと聞いて何を想像しますか？仏教国である、辛いものが多い、など…。私も実際に滞在するまではそう思っていました。しかし、7日間バンコク都へ派遣していただいたことで、私のタイへの考え方は大きく変わりました。今これを読んでいるみなさんにもタイについて知って、行ってみたいと思っしてほしいと思ったことが、このサブタイトルをつけた理由です。

親日国であるから 1.Thailand is Pro-Japanese Country.

タイの親日ぶりはみなさんが想像している以上のものです。私たちが滞在している間、バンコク都の職員の方、ホストファミリーを始めタイの方たちにとってもよくしていただきました。お店の前を通ると、「こんにちは！」(たまに「你好！)と話しかけられ



Figure 2: 日常茶飯事の渋滞

ることもしばしば。

タイは車社会ということもあってか、トヨタはもちろんホンダや三菱といった日本車、またいすゞのトラックをよく見かけました。スーパーでは、味の素やプリッツ、ポッキー、かっぱえびせんなど日本でおなじみの商品が、日本語の表記付きでたくさん並んでいました。しかし味は日本のものと違い、魚介類の味が強かったです。ショッピングモールでも、日本のお店のチェーン店などではないのですが、



Figure 1: 出迎えてくださったマッタヨム・フ
ラナワット高校のみなさん



Figure 3: スーパーにて、大
量の味の素



日本語の店名が多いのが印象的でした。しゃぶしゃぶや寿司などの日本料理店も多かったのですが、やはりタイ風に少しアレンジされていました。

また『Pokémon Go』が流行っていたことや、『君の名は。』がタイの映画館で上演されていたことを聞き、日本のポップカルチャーがタイの方たちに受け入れられているなあと感じてうれしかったです。

Figure 4: 「寿司」のようなもの



Figure 5: 「ホワイトデー」というお店のタイティーフラペチーノ。このお店のスローガンは「贈り物はいつもあたたかい。」

独特な文化を楽しめるから 2.Thai Culture Are So Unique.

タイは日本とは異なる文化をたくさん持っています。辛く、甘く、酸っぱいタイ料理や、個性的な形や色、味の果物を食べることができます。私のオススメはやっぱりトムヤムクン！とても辛いので、

よくご飯（タイ米）が進みます。



Figure 7: 果物が好きな人にとっては「天国」

タイの果物といえばドリアン！せっかくなのでドリアンのパフェに挑戦してみましたが、匂いも味も強烈で筆舌に尽くし難かったです。しかし、人生で一度は経験するべき味だと思いました。

タイの最新技術を駆使してタイの古くからの文化を表現した「サイアム・ニラミット」は私が人生で一番感動したショーのひとつです。劇、ダンス、舞台装置、衣装、そして音楽はどれも迫力があり、最高でした。選ばれた観客が演者と一緒に楽器を演奏したり、演者さんが豪華な衣装と象とともに客

席を練り歩いたり、より観客を楽しませる演出もあり、最高でした。ショーの最中は写真撮影が禁止だったので、気になる方はぜひ公式ホームページを訪れてみてください。

全体を通して、タイの方々はその独特の文化をとっても大切にしながら、現代の技術とともに発展させているのだなあという印象を受けました。



Figure 8: ドリアンパフェ



Figure 6: 基本的にどれも辛かったタイ料理



Figure 9: 「サイアム・ニラミット」の演者さんと

英語を話すだけではない 意思疎通の経験を得られ 3. You Can Get Experience to Communicate Not Only in るから English.

タイには英語を話せる方もいますが、あまり得意でない方も多くいました。わたしのホストシスターやホストブラザーは英語を話すことができたのですが、ホストファザーとホストマザーはほとんど話せませんでした。最初はどうやって会話しよう？と焦ってしまい、言いたいことを伝えられないことが多々ありました。それで少し距離を感じてしまいました。しかし時間が経つにつれて、ボディランゲージや、簡単な英単語、時には簡単なタイ語を使って自分の意思や気持ちを表現することで、少しずつ意思疎通をすることができるようになりました。

もちろん英語は異文化交流において意思疎通をするための大事な道具です。しかし、ボディランゲージ、簡単な英語そして笑顔が何よりも実践的な意思疎通の手段であるということを今回の経験で学びました。どれだけ流暢に英語が話せるかより、どれだけ相手に合わせられるか、相手に伝わるように話せるかがより重要だということを知りました。

Figure 10,11:

タイ最古の寺院、ワット・ポーにて。伝統的でしかもフォトジェニックなものがたくさんありました (ホームステイ1日目)



Figure 12,13:

現在、日本の仏像はほとんどが深緑色なので、タイの金色の仏像が私にとっては新鮮でした (ホームステイ1日目、2日目)



Figure 14:

ホストファミリーと水上マーケットにて。風を切って進むボートが心地よく、また周りの景色も楽しむことができました。(ホームステイ2日目)

おわりに Conclusions

私にとって、今回が初めてのアジアへの渡航でした。タイも文化は日本のものと比べると本当に異文化で、戸惑うことも少なからずありましたが、次第にその違いを楽しめるようになりました。そして、どれも全ていい経験になりました。

この経験を自分だけに留めず、周りにたくさん発信していきたいと考えています。これからも、SNSなどで連絡を取り続けたり、タイとの異文化交流事業に進んで参加したり、将来再びタイを訪れたり、継続的な交流を目指していきます。

ขอขอบคุณผู้มีส่วนร่วมในโครงการนี้ทุกคนค่ะ

この事業に携わってくださった

全ての人に感謝しています。

THANK YOU ALL WHO ENGAGED IN THE PROGRAM!

愛知県高校生訪問団 バンコク 派遣事業報告書

愛知県立中村高等学校 松永有叶

この派遣事業を通してたくさんの忘れられない思い出ができました。また、タイについてたくさん知ることが出来ました。



～タイの街並みについて～

タイはものすごくバイクが多かったです。二人乗りの後ろの人はヘルメットを被っていなかったり、三人乗りをしている人を多々見かけました。また、信号機に数字が出てきて後何秒で変わるのかというカウントダウンがありました。信号機



には黄色がなく、青と赤だけでした。こういったところで文化の違いを感じました。

街にはたくさんの屋台やマーケットがならんでいて、

朝昼晩どの時間帯もたくさんの人で賑わっていました。



～タイでの食事について～

私が一番驚いたことは日本食が凄く浸透していたことです。

一日目の夕食は

「Shabushi」というしゃぶしゃぶ屋でした。店内は現地の人たちでとても混んでいました。



また、三個のショッピングモールに行きましたが、どこのモールにもたくさんの日本食レストランがありました。



お寿司屋、ラーメン屋などたくさんありました。しかし私が一番多く見かけたのは、しゃぶしゃぶ屋でした。

タイ料理は、基本的に大きい皿にあるおかずをみんな



でつついて食べる文化でした。魚丸々一匹が大皿で、でてきたときはとても驚きました。

味は辛いものはものすごく辛くて甘いものはすごく甘かったです。合う人合わない人分かれていましたが、私はとても美味しいと感じることができました。



ホームステイの時に市場に連れていってもらい、たくさんの果物を食べました。

ドリアンやマンゴスチン、カヌン、グァバ、クルアイ、リンチーなど日本ではみたこともないような果物をたくさん食べることができ、楽しかったです。



～高校訪問～

二日目にマッタヨム・プラナワット高校へ行きました。

手作りの首飾りをもらい、生徒たちの熱烈な歓声を受けまるでレッドカーペットを歩いている気分でした。



そして、授業では理科の実験を一緒に受けました。グループ



で実験方法を考えなくては
いけなくて、伝えたい事が上
手に伝えられなかったり大



変でしたが、楽しくやり終えることができ、良かったです。また、先生の間いかけに積極的に答えている生徒がほとんどで学習意欲の高さに感心しました。

昼食の時には、生徒がタイの伝統楽器での生演奏をしてくれました。その後には使い方を教えてもらったり、音楽を通して交流をすることが出来ました。昼食後はたくさんものを作りました。英語でコミュニケーションをとることが



難しく大変でしたが、いろんな子が手伝ってくれてなんとか



作ることが出来ました。みんなとても指先が器用でびっくりしました。みんな優しく楽しい

時間を過ごすことができました。



バディーとは偶然にも好きな歌手と一緒に話がとても盛り上がりました。連絡先も交換して今も連絡をとっています。



～七日間を通して～

一週間こんなにも英語で生活することも初めてで初めてのタイで、何もかもが初めてのことばかりで

全てが新鮮でした。言いたいことが言えなかったり、言っていることが理解できなかったり、まだまだだな、と実感しましたがそれ以上にもっと頑張ろうと思えた七日間でした。また、仲間からたくさんの刺激をもらいながらこんなにも充実した生活を送ることができ、一生忘れられない思い出となりました。この事業で学んだことを活かすことができるようにこれからも積極的に頑張ります。本当にありがとうございました。



Aichi—Bangkok High School Student Exchange Program

愛知県立 瀬戸西高等学校 木村 優那

Day 1.

私は今回のバンコク都への訪問で、初めて海外へ行くことが出来ました。朝、セントレアに着いた途端に緊張して、少しずつ不安も感じて来ました。

でも、私が不安な顔をしていると笑顔で「楽しみだね。一緒に頑張ろうね。」と、バンコクへ一緒に行く仲間が声をかけてくれました。この時私は、この言葉を受けて今回の事業を改めてしっかりとやり遂げようと思いました。

バンコクに到着して空港を出るとまず、タイの独特な匂いに驚き、その時初めて「外国に来たんだ！」という実感が湧いて来ました。

そして、バスでバンコク都副知事表敬訪問へと向かい、その会場はとても豪華なところで、私や一緒に行った仲間たちに、何とも言えない緊張感が張り詰めて来ました。話を聞くにつれ、愛知県とバンコクの歴史は長く、様々な交流をしていることが良く分かりました。



Day2

マッタヨム・プラナワット高校では、校門から沢山の生徒達が、私たちを歓迎してくれました。

体育館では、タイの伝統舞踊を披露して頂き、こちらからも、愛知県に関するクイズや「PPAP」と「世界に一つだけの花」を披露し、お互いの文化を伝え合うことが出来たと実感出来るとても貴重な時間となりました。昼食の時にも、タイ舞踊と伝統的な楽器を使った音楽を披露していただきました。



また、伝統的な楽器を弾かせてもらう体験を始めとする様々な授業体験をさせてもらうことで、タイの伝統文化について学ぶことが出来ました。この貴重な体験は、本当に楽しいもので印象深い一日となりました。

この日の夕食は、ホストファミリーとの顔合わせとなる「ウェルカムパーティー」でした。

そこで、私は代表スピーチをしました。私はとても緊張していましたが、そのスピーチを笑顔で聞いてくれて、私は、明日からのホームステイへの期待が大きなものになりました。

Day3, 4

私は、今回2日間で、人生初めてのホームステイを経験することになりました。「ホストファミリーってどんな感じなのかな」と心配をしていましたが、2日間に渡ってホストファミリーってこんなにも優しいんだと感じました。

私のホームステイ先には、同年代の高校生がいませんでしたが、ホストマザーが私たちが訪問した高校の先生ということで、その学校の生徒2人が2日間ずっと一緒に行動してくれました。一緒にホームステイをした「みらいちゃん」とも、とても楽しく過ごせました。私のホームステイ先は、沢山の動物を飼っていて、動物園みたいで楽しかったです。

ホームステイ1日目はホストマザーが「何かしたいことはある？」と聞いてくれて、「寺院に行きたい。」と答

えたら、とても大きくて豪華なお寺に連れて行ってくれました。

そして、お参りをして仏像に金粉をつけながら、願い事をするというここでしかできない経験をしました。次に、タイで有名なマーケットに行きました。初めて見る食べ物や、売り方に驚き、とても面白いと感じました。そして次は、私がとても楽しみにしていた象に乗る体験でした。これは絶対にやりたいと思っていたことだったので本当に嬉しかったです。象は想像していたよりすごく大きくてスリルが増してすごく楽しかったです。



その日の夜は、私と、みらいちゃんとバンコクの高校生二人の4人でずっとおしゃべりをしていました。

ホームステイ2日目は、タイの料理作りを体験させてもらいました。私は、料理をするのが好きなので普段作れないタイ料理を作ることが出来て嬉しかったです。スープの中にお米と肉団子のようなものを入れた食べ物はすごく美味しかったです。朝ご飯を食べている時に、ホストマザーから「タイの人はたまにしか朝ご飯を食べないのよ。」と、タイの日常について教えてもらいました。その後にはタイの伝統衣装を着させてもらいました。最初にダンスをする時に着るピンクの衣装を着ました。

2着目は、タイの人たちの普段着だそうです。どちらもかわいい服で、沢山写真を撮ることが出来てすごく楽しかったです。

このホームステイでは、ホストファミリーにタイの文化を教わるだけでなく、私たちからも日本の文化を伝えました。私とみらいちゃんは違う学校でしたが、偶然にも同じ茶華道部に所属していたのです。

そして、2人でお抹茶を振舞おうと計画し、私は瀬戸焼のお茶碗、みらいちゃんは西尾のお抹茶の粉を持って行きました。

2人でお抹茶をたてると、ホストファミリーはとても喜んでくれたので、やって良かったなと思い、お互いに文化を伝え合うことが出来た貴重な経験となりました。



Day5

この日は最初にワットプラケオ寺院に行きました。世界遺産ということで、入る時も警備と検査がすごく厳しくて驚きました。入口の門から言葉に出来ないくらいにきれいで、広く、全てが豪華で圧倒されてしまいました。



次にバンコクシティ図書館に行きました。この図書館は、とても広くてセキュリティすごく、こんなに設備の充実した図書館が、私の家の近所にもあったらなと思いました。

その後は、「バンコクの新宿」と呼ばれるサイアムスクエアを散策しました。

そこには、おしゃれなお店が沢山あって、わくわくしました。タイの物価は安く、自分へのお土産を沢山買ってしまいました。

この日最後に行ったのは、サイアムニラミットです。ここでは、タイの村を再現しているタイ・ビレッジがありました。様々な伝統文化を感じることが出来、村の雰囲気は落ち着いていてとても心地よい場所でした。



小さな船に乗ってタイの村の雰囲気を味わうことが出来ました。巨大なステージで行われるショーは、私の想像をはるかに超える迫力で感動しました。このショーは是非沢山の人に見て欲しいと思いました。

Day6

最初に行った、ナワミンタラーティラート大学では、リアルに手術の練習をすることが出来る設備を見ることが出来、とても印象に残りました。この大学には100年前に建てられた病院がありました。100年も前の建物が今も残っているということは、それだけ大切にされているものであると感じました。

デンソー・タイランドでは、最新の技術を沢山見させていただきました。鷹を使った訓練があると知り、面白いなと感じました。

また、環境保護活動も積極的に行っており、日本だけでなく、外国でも環境に対して、良い考え方が広まっていると知り、嬉しく感じました。



Lastly

私はこの6日間で、タイの様々な文化を知ることが出来、そして、日本の文化を伝えることも出来ました。今回経験させていただいた貴重な経験を、今後の人生に活かしていけるよう、何事にも前向きに取り組むようにしたいと思いました。

にしたいと思いました。

この派遣事業での出会いを大切に、つながりが途絶えてしまうことのないようにしたいと思いました。



以上

Aichi - Bangkok High School Student Exchange Program 2017

尾北高等学校 磯谷海貴

～1日目～

バンコク都副知事表敬訪問をしました。僕たちはとても豪華な部屋に案内され、バンコクの方々から温かい歓迎がありました。また、お土産で象の人形をいただきました。



～2日目～

「マッタヨム・プラナワット高校」に訪問しました。学校に着くとみんなが集まっていて、拍手で迎えてくれたのでとても嬉しかったです。僕たちはパフォーマンスで、「ピコ太郎のPPAP」と「SMAPの世界に一つだけの花」、「愛知県についてのクイズ」を行いました。想像していたよりもみんな盛り上がってくれて、とてもやりがいを感じました。授業体験ではたくさんの物を作り、お土産と思い出ができました。



その後ホストファミリーとの「ウェルカムパーティー」がありました。最初は緊張して全然話すことができませんでしたが、とても優しく接してくださったのでホームステイがすごく楽しみになりました。

～3日目～

この日はホストファミリーと会い、いろいろな場所に連れて行ってもらいました。ホストファミリーは高校の先生で、そこの生徒5人が来てくれてホームステイを一緒に過ごしました。最初に「チャームビーチ」





へ行き、そこではタイ料理やシーフードを食べたり、浜辺で楽しく過ごしました。水着を持っていなかったので海には入れませんでした、バナナポートなどマリンスポーツもありとても楽しそうでした。

次に「ラーチャパック公園」へ行き、そこはタイの歴代の王様の中で特に名君とされている7人の青銅像が建てられている場所でした。1つの銅像の高さが平均で13m以上もあり、とても大きかったです。そして「プラーンワン」へ行きました。そこはレトロなお店が並んだ、とてもきれいでおしゃれなモールです。ここではハンドメイドの物が売っていて、タイらしいものが買えました。



家に帰ってからは食事をして、その後「カオトムマツト」という、バナナをもち米で包んでバナナの葉で巻き、蒸して作るタイの伝統菓子を作りました。甘酸っぱくてバナナの葉のいい香りがして、とても美味しかったです。

～4日目～

この日もホストファミリーと一緒に行動しました。最初にタイの「ワット プラパトムチェーディー」という寺院へ行きました。ここはタイで最も高い仏塔と言



われていて、実際見てもとても大きかつ



たです。寺院に入ると仏像が立っていて、そこに線香と花をお供えして、その仏像に金箔を貼りお祈りするのが参拝の仕方です。僕は教えてもらいながらしました。そして次に「チャトゥチャック ウィークエンド マーケット」に行

きました。ここはとても有名なマーケットで、たくさんのお土産が安い値段で売っていたので、たくさんのお土産を買うことができました。見るだけでも楽しいマーケットだったので、またいつか行きたいです。

そしてホストファミリーとお別れでした。2日間とても楽しくて、素晴らしい時間を作ってくださったホストファミリーにとっても感謝しています。この思い出は一生忘れられない宝物になりました。またいつかタイに戻って、会いたいです。



～5日目～

「ワットプラケオ(エメラルド寺院)」を見学しました。ここはとても有名な観光スポット



で、たくさんの観光客でいっぱいでした。多くの人に押しつぶされながらも、エメラルド色の「エメラルド仏」を見ることができて良かったです。

次に「バンコクシティ図書館」にも訪問しました。



ここは2017年3月に開館したばかりで、地上3階もの高さで建てられています。たくさんのお土産があり、安い値段でWi-Fiを1日中借りることができるので、現地の人によく自習で訪れるそうです。

そして「サイアムニラミット」に訪問しました。ここにはタイの村を再現した「タイ・ビレッジ」があってゾウが



いたり、また有名なショーを見ることができる大型劇場があります。このショーはギネスに認定されるほど有名で、とても迫力がありスケールが大きかったです。あっという間に時間が過ぎてしまい、もう一度見たいと思うほど楽しかったです。



～6日目～

「ナワミンタラーティラート大学」を訪問しました。この大学は医学部や看護学部があり、バンコク都によって管轄されています。将来の医学に貢献できるよう腕を磨いていました。



タイには日本の企業が多く進出していて、その中の1つである「デンソー・タイランド(バンパコン工場)」にも訪問しました。ここでは様々な機械の部品を作っていて、たくさんの従業員の方々が働いていました。最近では生産過程に機械を導入し、効率よく生産できるようにしているそうです。また、工場内に時々鳥が入ってくることもあるそうで、その対策としてそれらの天敵である鷹を工場内で飼っていました。それからは工場内に入ってくる鳥の数は減ったそうです。



そしてタイでの最後の夕食を終えて空港へと向かいました。空港にはホストファミリーと、ずっと一緒に過ごした友達が見送りに来てくれていて、まさかもう一度会えるとは思っていなかったのもとてもびっくりしたし、とても嬉しかったです。これからタイを出るのかと思うと、とても寂しくなりました。そしてとうとう出発の時間となり、日本へ帰国しました。



～最後に～

今回の派遣、初の海外でたくさん学びたくさん感じた皆さんの思い出ができました。今までタイのことはほとんど知らなかったけれど、今回の経験でタイが大好きになったし、またいつかタイに行って、そこでできた友達に会いたいと思いました。また、言葉や文化の違う場所で生活するのは難しいなとも思いました。そんな中で





も英語でコミュニケーションをとることができたので、英語の大切さを改めて感じ、もっと力をつけていかなければいけないなと思いました。派遣中に失敗をしてしまい迷惑をかけてしまったこともあったけど、そこから学び今後そういったことがないように自分を成長させることができたらいいなと思います。

今回の派遣で本当に多くの方にお世話になり、助けていただきました。そういった方々の支えがあったからこそたくさんの素晴らしい経験ができ、まちがいなく自分の今後の人生に活かすことができると思います。今回のバンコク都派遣事業に参加できたことに、とても感謝しています。本当にありがとうございました。